

2020 年度実施概要

学校名

気仙沼市立唐桑中学校

採択活動名

テーマ「まちを知り，どのようなまちを目指し，そのためにどうしていけばいいのか？」

実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください。

【1 学年】

- | |
|--|
| 1. ガイダンス「防災のまちとして」 テーマの確認，課題設定（3 時間） |
| 2. 唐桑で起こり得る災害について考える（4 時間） |
| 3. 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館訪問，伝承館訪問の振り返り（5 時間） |
| 4. 防災の新聞作成（1 1 時間） |

【2 学年】

- | |
|---|
| 1. テーマ「人はなぜ働くのか」課題設定（3 時間） |
| 2. 職業講話「ミライブラリー」①～③，振り返り（4 時間）講師：漁師，市役所職員，デザイナー，プログラマー等 |
| 3. 職業講話のまとめ，御礼状の作成（4 時間） |

【3 学年】

- | |
|--|
| 1. 海のまち『唐桑』を知る（7 時間）事前学習，課題設定，SDGs を知り課題設定につなげる |
| 2. 海のまち『唐桑』の地元を知る①・②，海を知る・感じる③（1 8 時間）
中の浜・笹浜漁港訪問，気仙沼湾周遊，講師招聘 |
| 3. 海のまち『唐桑』の未来のために行動する，まとめ，振り返り，これまで学習したことを文化祭で発表しよう（1 2 時間）
コース毎の活動「SDGs について理解する」「海洋に浮かぶゴミについての調査」
「ゴミ削減に向けた調査，ゴミ収集装置の製作」「地域の自然・環境について学ぶ」等 |

取り組みの概要

海とかかわりの深い自分たちの故郷について，その成り立ちや生活・歴史を学び，良いところを知るとともに，抱えている課題を調べ，整理し，故郷の未来に向けて，自分たちができる解決方法を考え実践する。

〔各学年の取り組みから〕

【1 学年】「防災のまち」として，どのようなまちを目指し，そのためにどうしていけばいいのか。

- 地域と防災について理解を深め，地域のために役立つことを考える。
 - ・「市東日本大震災遺構・伝承館訪問」を通して，震災時の様子を知るとともに災害への備えの必要性を実感する。
 - ・「防災新聞の作成」を通して，地域で起こり得る災害について，地震による津波だけではなく災害の種類や発生した場合の被害の状況等を想定し，地域に暮らす人々の防災に役立つことを考える。

【2 学年】「福祉のまち」として，どのようなまちを目指し，そのためにどうしていけばいいのか。

- 地域の社会人との対話を通して，働くことの意義ややりがいについて考え，個々の将来につなげる。
 - ・地元在住の漁師や市役所職員，デザイナー等の講話を通し，働くことややりがいについて感じ取る。
 - ・地域に住む人々の暮らしや働き方について知り，まちを支えている人々の存在に気付く。

【3 学年】「海のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか。

- 地域を散策したり地域の方々から聞いたりした講話をもとに、探究活動に取り組み、見えた課題を追究しながら自分たちに出来ることを考える。
- ・豊富な海の資源の利用、海にかかわる人々の暮らしについて調べる。
- ・自分たちの住む「海のまち」のよいところ、抱えている課題について明らかにする。
- ・地元の浜を訪問したことで見えた課題から、コース別に課題解決の工夫を図る。
- ・「海のまち」の未来のために、アイデアを出し合い、計画・実践する。



1 年：震災遺構伝承館訪問の様子

2 年：職業講話で講師のお話を聞く様子

3 年：地域講師からの海洋についての講話

〔実践を通して〕

- ・年度当初、フィールドワークや職場体験学習、複数の講師を招聘しての講話の開催など、学年毎に様々な計画を練っていたが、実際は、新型コロナウイルス感染症の影響により、制限がある中で計画を練り直しながらの実践となった。
- ・体験学習や講師の招聘など、規模を縮小するものは多かったが、学習を通して生徒達は体験できることに喜びを感じながら学習に励む様子が見られ、他者と協力しながら取り組む姿勢が身に付いた。
- ・地域の様々な年代の方を講師に招き、生徒とともに活動することで、生徒が進んで質問をする姿が見られるなど、コミュニケーション能力が高まった生徒が増えた。
- ・地域支援コーディネーターや公民館をはじめとした地域の方々の協力のお陰で体験学習が実践できているが、身近にありながら知り得なかった地域の場所などの新たな発見があり、地域の良さについて再発見できた。
- ・地域を自らの足で散策し環境を観察したり、講師の方々のお話を聞いたりすることで、過去や現在に至るまでの地域についての情報を得ることで、良い意味での変化や環境面で悪い意味での地域の変化についても知るきっかけとなることができた。
- ・探究学習を通して、自分たちにできることを広めていこうという前向きな行動が見られた。

〔課題：生徒〕

- ・与えられた提案等に対して受け入れる気持ちが強く、批判的に物事を考えることが課題である。
- ・地域の課題を見付け、それらの課題を自分自身の課題として捉えることが不足している。

〔課題：教員〕

- ・前年度の課題を次に生かすなど、3年間を見通した系統性を持たせられるような課題設定。
- ・課題発見や課題設定の十分な時間の確保。
- ・生徒が自らの活動で見付けた課題を解決していけるような学習過程の充実。
- ・探究学習を進める上での指導する側のスキルアップ。

本校の学習活動は、地域人材との協働が不可欠である。これまでも学校教育への理解をもとにたくさんの協力をいただいていた。外部機関との連携を含め、幼稚園・小学校など、地域とのつながりを大切にしながら、総合学習の時間と教科との関連性を精査し、今後も計画・実践を図っていきたい。